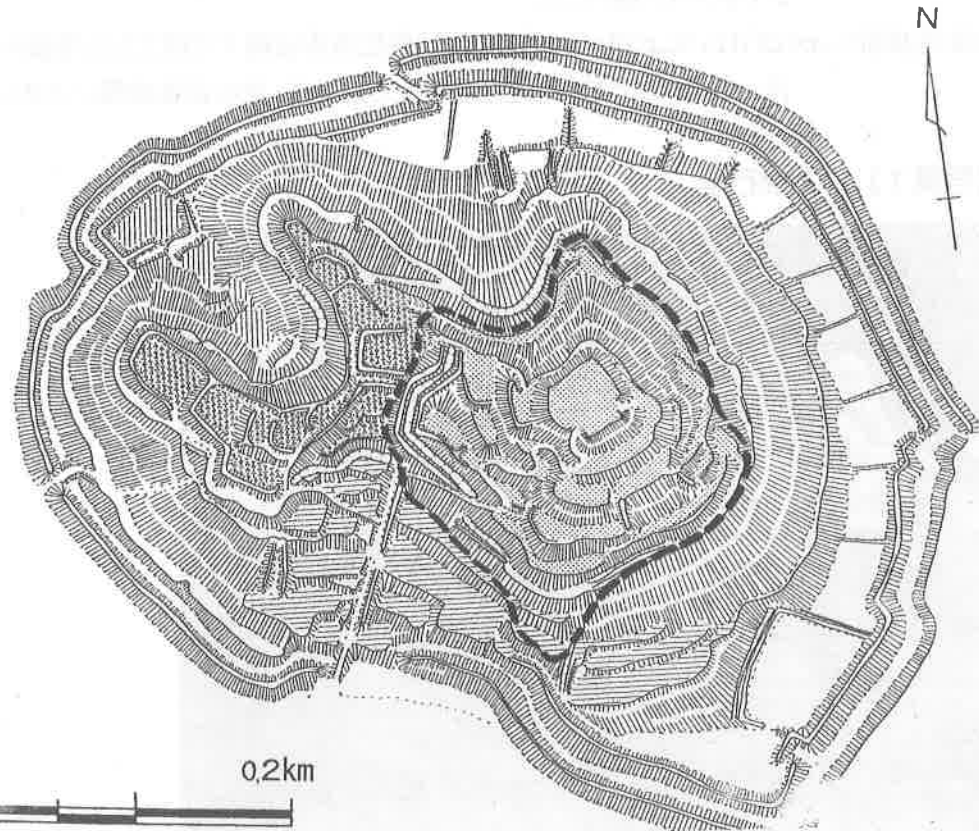


史跡小牧山主郭地区第4次発掘調査 現地説明会資料

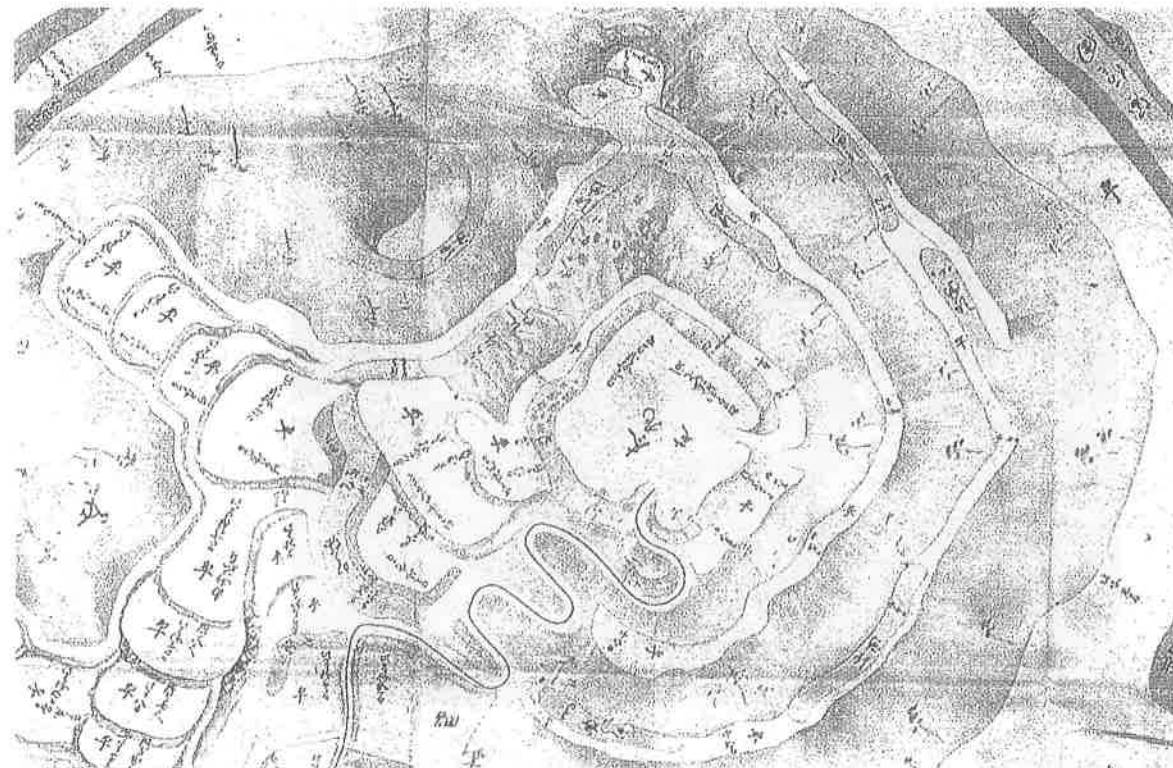
平成24年3月10日(土)

遺跡名 こまきやまじょう 小牧山城 (国指定史跡 小牧山)
所在地 愛知県小牧市堀の内1丁目地内
調査理由 史跡整備
調査面積 約400㎡
調査期間 平成23年11月～平成24年3月
調査主体 小牧市教育委員会

小牧山城縄張図
(破線の範囲が主郭地区)



春日井郡小牧村古城絵図(部分拡大)
※十七世紀中頃
蓬左文庫蔵



1 調査の概要 (何ができたのか)

史跡小牧山主郭地区の発掘調査は史跡整備に伴う事前調査のため、4ヵ年の試掘調査と3ヵ年の発掘調査を経て、今年度が8年目となります。今回の調査と過去の調査成果から、永禄6年(1563)に織田信長が築いた小牧山城の姿が徐々に明らかとなってきました。

今年度の調査(第4次発掘調査)で得られた主な成果は次の3点です。

- (1) 昨年度に引き続き、主郭をめぐる石垣が南西斜面でも屈曲を繰り返しながら築かれていることがわかりました。山本来の岩盤を加工して石垣と併用している部分も確認できました。大手道の付近では複雑な形状を呈しており、主郭(本丸)に入る要所(大手虎口)の構造の一端が確認できました。【資料2】
- (2) 主郭周囲の通路状の平坦面(武者走り)には大小色様々な玉砂利が敷き詰められていることを確認しました。また柱穴の可能性のある穴を2基確認しました。いずれも主郭地区では初めての確認例となります。柱穴の確認により、主郭(本丸)とその周囲に建造物が存在した可能性が出てきました。
- (3) 銅像足元の巨石の調査から、もともと1個の方形の巨石が、江戸時代初期(慶長頃)に2つに割られたことが判明しました。この巨石は小牧山では産出しない花崗岩という種類の石で、築城に伴い、主郭まで運び上げた可能性があります。

■花崗岩巨石の法量(推定復元) : 215 cm × 240 cm × 170 cm

※ 花崗岩巨石の変遷

- ①永禄期: 主郭に運び上げられる
- ②慶長期: 楔により2つに分断、刻印施文
- ③昭和: 徳川氏の銅像設置

2 まとめ (何が明らかになったのか)

- 1 いわゆる「城」(後世の城の規範となる織豊系城郭)の石垣のルーツとなる小牧山城の石垣が続々と姿をあらわしています。【資料2・3】

…日本の城郭で最も古い時期の石垣(付表2参照)と主郭の縄張り(プラン)について、築城当時の様子を検証する手がかりとなります。

2 織田信長の石への志向がさらに明らかになってきました。

…「城」という字が「土+成」であるように、小牧山城以前の城は石垣を持たない「土の城」でした。石垣により「石の要塞」の外観を呈する小牧山城が当時の人々に与えたインパクトはとても大きかったことでしょう。加えて、今回の調査で確認された花崗岩巨石は、小牧山城の大手道、主郭の入り口部分にあり、登城者への視覚効果を意識して配されたものと考えられます。

付表1：小牧山の歴史

時代	年	できごと
戦国時代	永禄 6年 (1563)	織田信長が小牧山城を築城し、清須から移る。小牧山南麓には城下町を整備した。
	10年 (1567)	織田信長、稲葉山城を攻略。岐阜と改称し、小牧山から居城を移す。小牧山城は廃城となる。
安土桃山時代	天正12年 (1584)	小牧・長久手の合戦 (羽柴秀吉軍と織田信雄・徳川家康連合軍の戦い) 徳川家康は織田信長の小牧山城跡を改修して陣城を築く。
江戸時代	慶長15年 (1608)	名古屋城築城開始。小牧山城の石垣を持ち出しか？
		小牧山は尾張藩領となり、家康公ゆかりの地として、一般の入山が禁止される。
明治時代	明治 2年 (1869)	版籍奉還により、小牧山は国有地となる。
	5年 (1872)	県立小牧公園として一般公開される。
	22年 (1889)	小牧山が徳川家の所有となり、一般公開を止める。
昭和～平成	昭和 2年 (1927)	10月26日 国の史跡に指定される。
	5年 (1930)	徳川家から小牧町へ小牧山が寄付される。
	22年 (1947)	東麓に小牧中学校が建設される。
	43年 (1968)	山頂に小牧市歴史館が建設される。
	平成10年 (1998)	小牧中学校を史跡外へ移転する。
	15年 (2003)	小牧中学校跡地を史跡公園として整備、開放される。
	16年 (2004)	主郭地区試掘調査開始 (第1～4次調査)
	20年 (2008)	主郭地区発掘調査開始 (第1～4次調査)

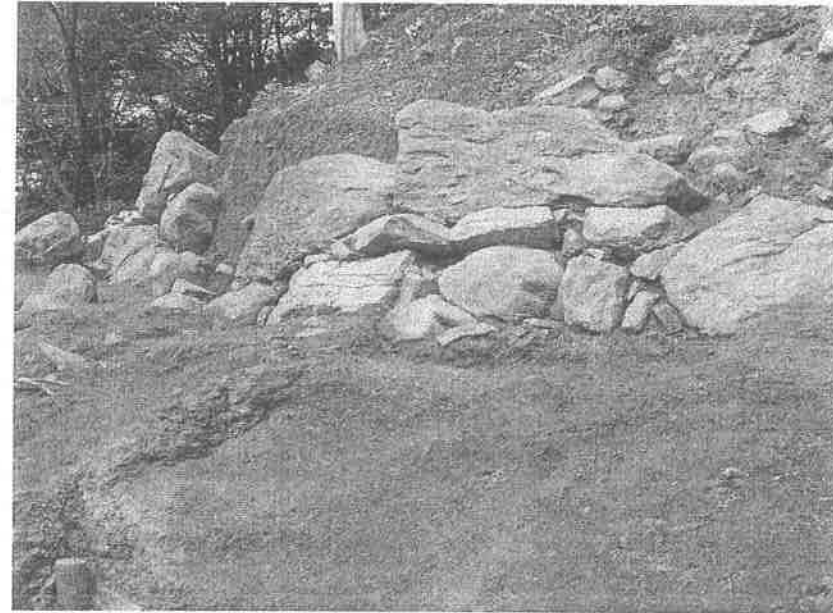
付表2：織田信長天下統一への過程と城郭

年代	信長年齢	できごと	城郭名	信長築城か？
弘治 元年 (1555)	22 歳	清須城入城	清須城 : 石垣なし	×
永禄 3年 (1560)	27 歳	桶狭間の戦いで今川義元を討つ		
永禄 6年 (1563)	30 歳	小牧山城築城、清須から移る	小牧山城 : 石垣構築	○
永禄10年 (1567)	34 歳	稲葉山城攻略、岐阜城と改め 小牧山城から移る	岐阜城 (千畳敷) : 巨石石積	改修
天正 4年 (1576)	43 歳	安土城築城開始	安土城 : 総石垣	○
天正10年 (1582)	49 歳	本能寺の変		

【用語メモ】

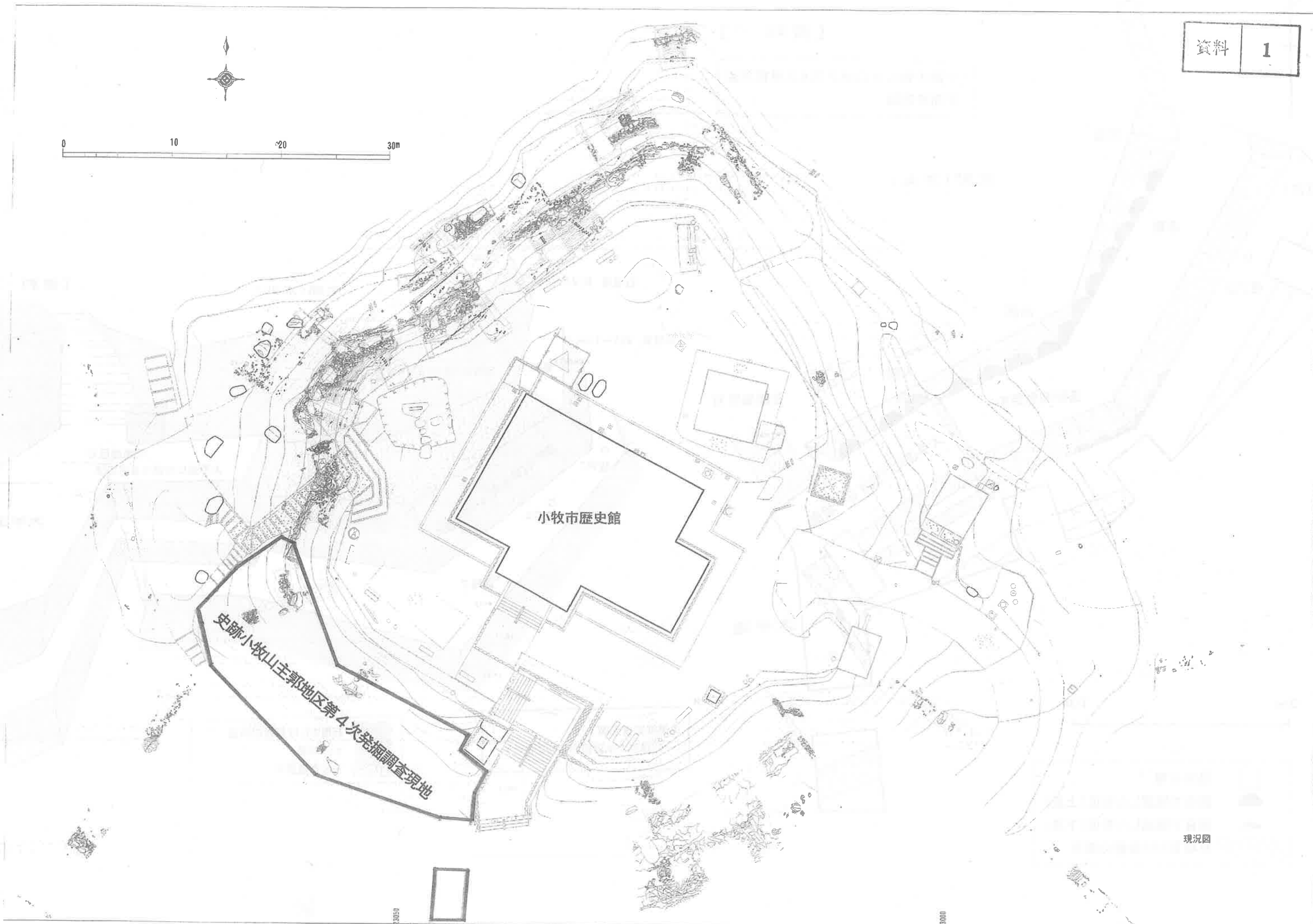
- 曲輪(くるわ) 郭とも。堀・土塁・堀などで囲われた一区画。城郭の部分呼称として使われる。
- 切岸(きりぎし) 曲輪直下の斜面のこと。敵を登らせないために山の斜面を削って急斜面にした施設。
- 石垣(いしがき) 石を積み上げて築いた垣や壁。戦国末期の山城に野面積石垣が普及し、技術の向上とともに急速に発達。近世城郭の石垣に引き継がれ打込み矧ぎ・切込み矧ぎの石垣が出現した。
- 裏込石(うらごめいし) 栗石(ぐりいし)とも。排水や背面の土圧を調整し、石垣を崩れにくくするため石垣の背後に入れられた石・礫のこと。
- 織豊系城郭(しよくほうけいじょうかく) 織田信長・豊臣秀吉政権下で成立した築城の総称。それまでの中世城郭からは一線を画した技術と思想を持って築かれ、後の近世城郭に大きな影響を与えた。

【写真1】 上段石垣



【写真2】 調査区全景





小牧市歴史館

史跡小牧山主郭地区第4次発掘調査現地

現況図

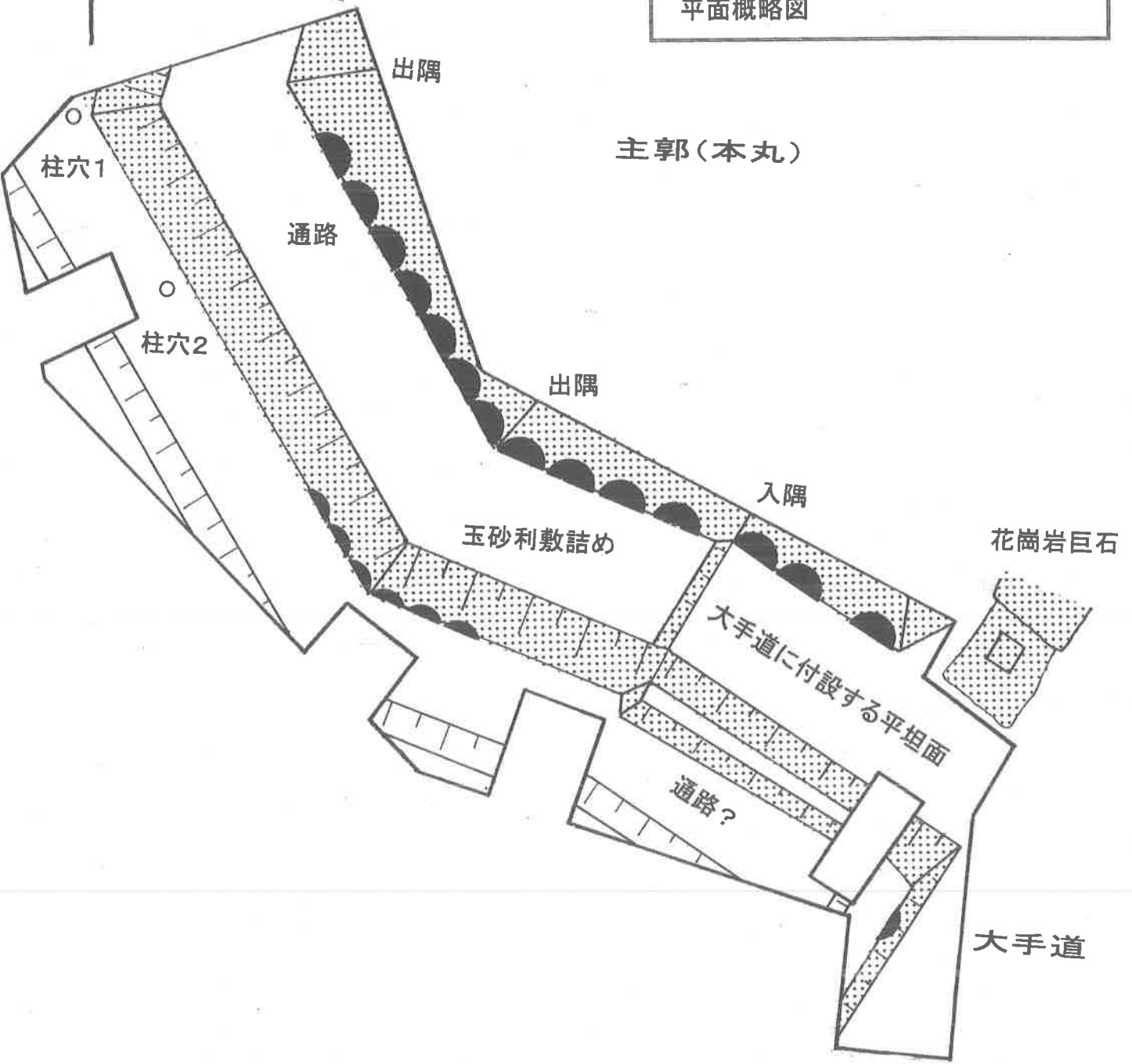
23050

23000







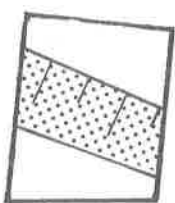
【資料 2】

史跡小牧山主郭地区第4次発掘調査
平面概略図

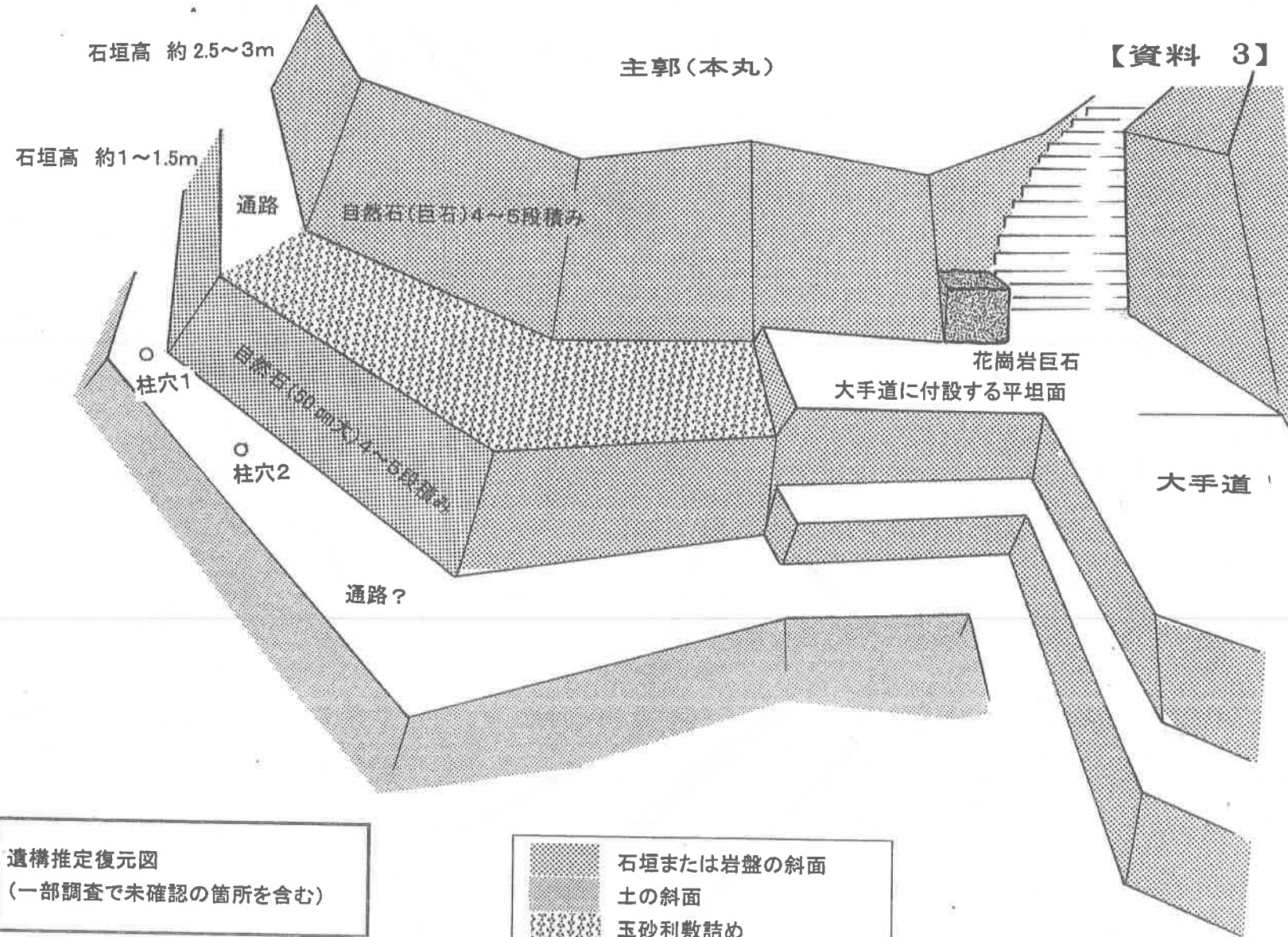


0m 10m




-  路頭石垣
-  調査で確認した石垣(上段)
-  調査で確認した石垣(下段)
-  石垣または岩盤の斜面



【資料 3】



遺構推定復元図
(一部調査で未確認の箇所を含む)

-  石垣または岩盤の斜面
-  土の斜面
-  玉砂利敷詰め